

拜礼あかしに／忽から(たふ)ぶすくみてはなれず、し／きりにもたゆれとも、猶も動ぎ／れば、大に恐れ謹之懺悔し百韻／の連歌を奉るへしと深く祈／願有けれハ、即時頭動きし故、日／ならず、百韻の連歌を捧たり、其／外寄瑞あけてかそふるにいとまな／し、此故に鏡の御願天神と唱へたり、／〈但、此縁記／太慈院様より〉御仕替二相成事、

宝曆四戌年、八百五拾年之御神忌有、

宝曆十三未年迄、八百六拾壹年二至也、

安永六酉年、八百七拾五年御神忌有、

享和二戌年迄九百年、

文政十亥年、九百貳拾五年、

嘉永五壬酉年、九百五拾年、

明治九子年、九百七拾五年、

明治三十五年、壹千年、

大正拾五年四月、壹千貳拾五年、

一、鳥居の額

先御代様御寄進

一、石燈籠 二基

右同断

一、焼灯 二張

右同断

一、管焼灯 二張

聖徳院様より

一、当

／太守様、御六歳御時御寄附、梅之／絵、松の絵之額二つ、当

御代二御封印被仰付候、

一、盛徳院様より御神影之御宮御寄／進、ふくさ平いたん右同、

一、天満宮御影 一箱

一、同縁起 一軸

一、連歌 一卷

一、大友家感状 拾七通

右、五品御封印二相成居候事、

一、(題)溪林院様御代当村先庄屋太兵衛／奉守御殿二而御許之由、

一、其後西(平出)／御殿聖徳院様(平出)／御同人様 御許庄屋甚次郎、／佐藤弥

三左衛門御屋敷迄／御供仕、夫より(平出)／御殿江御持参二相成候由、其

節者／乍恐定五郎様、太吉様 御拜之由、

一、其後庄屋宇右衛門、中田六次郎様／御屋敷迄奉守、夫より御同人

様／御裏御殿おみん様御拜被為遊、／若殿様、御姫様方も御同然のよ

し、／六次郎様より仰られ候、

一、先相之丞様より神箱一式御寄進の事、／花表ノ額御同然之事、

一、御内々より被仰渡、今之御社南北人／家四軒取除御社等も手廣く御

再／建二相成可申与之御義、且御池／等も出来仕候筈二、絵図等も出

来仕、／毎々(平出)／御殿中之口江庄屋宇右衛門御呼御座候、

天明九年

鏡御影天満宮社 御内々より／御取建相成候一件書留并御祭礼之／節取

計方覚書帳

二月上旬 天満宮社守

小川平助写之

天満宮略縁起

抑筑之後州竹野郡小川村天満宮と／崇奉るは、忝も菅公左逆の折から／三人の寵臣、都より御跡をしたひ、／太宰府へ下向、日夜仕へ奉るに、菅公／天拝山におゐて、天帝へ□行有るにより、永くおいとまを賜ふ時、御／記念として鏡に向わせ給ひ、真影を／自分画し、汝等いかなる遠鄙／に住すとも、我を慕ひおもひ出さ／ハ、此影を見るへしとして三人の愛臣へ／与へ給ふ、其内小川氏は当村に／居住へ是より小川を／在名に唱ふ／せしに、数百年の星霜／押移り、後裔小川伊賀守は八百町／を領せしかとも、豊後の国大友宗／麟邪宗を信るにより、小川村に住居／成かたく、筑前竈門山に落行九ヶ年／の間忍び、又彦山南谷直教坊に九年／隠れ、其後は筑前上座郡長洲村中／央天神屋敷と云所に密に至り、親屬／九人、七年の春秋を送りし内に、大友家／没せしにより、小川に帰邑し、御自／画を箱に納、崇敬仕奉れ置、本来／寄瑞利益勝計するにいとまなし、／就中延宝の比、当国北野山の座主／林松院貞圓法印、当邑に詣ふて、此尊／影を拝せんと開くに、明ざる故、蓋を／砕き取出せし処、頻に悩乱悶苦むゆ／へ、大に恐れ懺悔して百韻の連歌を／捧へしと誓願有れハ、忽常のこと／し、仍而日ならず百韻の連歌を奉／納せり〈懷中当社に／納あり〉、寔に世は焼季に／及ふといへとも、菅霊は弥益神徳／あらたに願望を祈るになどの成就の／有さらんや、可信々々、

欽言

此御縁記^(平出)／大慈院様より御宮御造營後、御仕立二／相成御渡之事、

右古来由緒経数百／歳星霜漸及廢失而／不詳事跡故纔拾共／遺書所載或俚語口／授以綴書之永貽後／毘焉
天明元歳次辛丑五月穀旦

御名 印有

此御縁記^(平出)／大慈院様より御仕立御封二相成居候事、

天満宮御社御内々より御取建二相成候／一件書留、

一、御神影之義、毎月正月十一日為御結／消一日充拝帳有之、御代々御

替目／之節者、^(平出)／御殿江御取寄、御許二相成居候由、承り伝候、

其節者社守奉供仕、大宮司、／庄屋茂町宿迄御供仕候、庄屋者何そ／

御尋之覚悟、大宮司者御明不被遊候／節之覚悟二而御座候事、

一、天明元丑年^(平出)／大慈院様より御許可被遊旨被仰渡候／二付、大宮司

小野播磨、庄屋宇右衛門、／社守助右衛門御供仕、^(平出)／御殿江罷上り

候処、御神新之義、十日／余り茂御留二相成、其後庄屋宇右衛門／御

殿江御呼二付罷出候処、天満宮由／来申上候様、被仰渡候由二而、御

側御／目附高橋八蔵様、稲富勇助様より御／尋二付、別紙由来書之趣

等、委細申／上候処、又々大庄屋竹下武七、^(平出)／御殿江御呼二相成被

仰聞候者、小川／天満宮之義、至而大切之御神／影二付、平日容易

二拝帳不仕様／御封印被為成置、右二付此節代木拜／領被 仰付候間、

大庄屋裁判ヲ以、／新二社地見立御社取建候様被^(開字)／仰渡候二付、社

地之義者内畠七畝／拾八歩、敷畝壹畝、都合八畝拾八歩、御境／内二

仕、武七才判二而只今之場所江御／社御造營二相成申候、尤右畝数御

／物成之義者、社守平助より相納居／申候事、

一、其節石燈籠一對、御挑灯一對御寄附二／相成申候事、

天満宮御寄附石燈籠二基^(竹野郡)小川村／毎年燈明定

一、正月三ヶ日、同六日、同七日、同十四日

一、節分

一、六月廿四日

一、七月十三日、同十四日

一、八月廿四日

一、五節旬四日

但、八朔者月並二加ル、

一、御祭礼正月十日、十一日、十二日

一、毎月朔日、十五日、廿五日、廿八日

×惣月数六拾五日

但、一夜一燈油式勺宛二燈分、

四勺充

右入用油式升六合

代錢

六百七拾六文壹升式百六拾文ノ宛り、但、壹ヶ月入用高也、

右之通被 仰出候条、永々無怠惰ノ挑可申附事、

天明二壬寅年十二月穀旦

上書 油料積書

安武長藏

覚

一、六百七拾六文

但、来卯年正月より同十二月迄ノ油代、

一、六百式拾文

但、右同断、御燈明燈着賃錢、

×壹貫式百九拾六文

一、六貫四百八拾文 相渡

但、当寅十二月より年中式割ニノ借付可申分相渡ス、

此利壹貫式百九拾六文

但、辰正月より年々油代并御燈明ノ燈候もの賃錢ニ可相渡事

×
一、七貫七百七拾六文

唯今相渡候錢高

右之通可被相心得候事、

天明二壬寅年十二月穀旦

安武長藏

龜王大庄屋

竹下武七殿

一、御社御普請前(平出)ノ殿様より大工棟梁阿部次平殿江被差ノ図候様被

仰渡候二付、神殿拜殿作り放しノ之地割被致候処、(平出)ノ殿様より被仰

聞候者、次平不案内天ノ満宮之社者、紫宸殿作り之物ニ而ノ有之候条、

神殿拜殿一ツニ作り候様被(平出)ノ仰聞候由ニ而、只今之通御造営ニ相成

申候、ノ御普請中折々大工棟梁并御手大工ノ衆見計ニ相見申候、一躰

之大工者小川ノ幸八棟梁ニ而有之候事、

但、雇大工者高木村丹平、清宗村ノ七太郎其外ニも相雇申候、

一、代木拜領之品々御造営余り御座候二付、ノ右余慶ヲ以、武七、宇右

衛門世話仕、神田地ノ地畠田薬師木与申所、壹反五畝拾歩相ノ調、社

守平助江預置申候事、

一、右神田相調候外ニ、余分有之候二付、鳥居ノ一基取建、其段御達申

上候処、寄特二被ノ思召上銘物者、(平出)ノ御上より御渡ニ相成候事、

一、右鳥居之額、其節御寄進ニ相成候事、

一、石燈籠一对御寄進ニ相成申候二付、御ノ燈明与して丁目六ノ文御寄

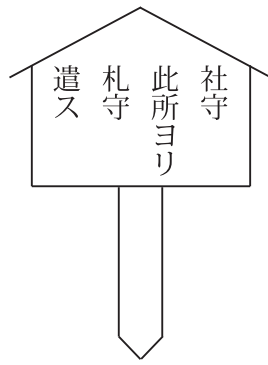
附二相成候ノ二付、夫ニ參物并札守料集候分、相加本地ノ畑方上り立
せ申所、九畝廿歩相調、此余ノ歩ヲ以、御書附之日數、毎月平助より
燈ノ明捧ケ居申候事、

但、毎月朔日、三日、七日、十五日、廿四日、廿五日、廿八日、
都而七日、其節安武伝八様ノ御持參相成候事、

一、大慈院様より社守と申名目御附被ノ遊候事、

一、御普請相濟候後、平助方木戸口ニ社守与ノ札立置候様被 仰渡、御
札御渡ニ相成ノ申候事、

但、御札之書面



一、右同相濟候上、庄屋宇右衛門(平出)ノ御殿江御呼ニ付、中の口へ罷出候

処、高橋八蔵ノ様、稲富勇助様より御尋御座候者、天満宮ノ社地、些
手狭相見候、広メ候得共、東西南北ノ江人家何軒取除ケ候哉、御地仕
立ニ相成候ノ得者、水路者有之候哉、御尋御座候ニ付、三ノ方人家四
家程御座候、水路之義者、南江ノ古賀津留用水溝御座候ニ付、是より
引受ノ北惠利津留溝江落候得者、清水ニ而御座候ノ段申上候処、追而
御社參可有之旨被ノ仰聞、(平出)ノ大慈院様者御襖之内より御聞被遊候由

二ノ御座候事、

但、絵図等仕立ニ相成候事、

一、右二付、田主丸畝上町口より小川村江之小道ノ取詰御座ニ付、小川

村中小路之方ハ、幅ノ壹間貳歩、馬場筋之所は貳間貳分ニノ相極リ、
道作り等相濟候ニ付、其後御達申ノ上候処、(平出)ノ御不例ニ而御參詣無
御座、其俣ニ相成ノ残念之事ニ有之候事、

一、絵図 御上覽之上、其時分者、医師ノ寿仙・油屋幸次郎兩家無之候

二付、ノ天満宮社南向ニ相成候得者、人家取ノ除ケニも不及、御地等
も致出来合、好ノ宜相見、南古賀津留溝双方石組ニノ相成、馬場筋ニ
相用候得者可然由、ノ併御社參ニ相成候得者、御社地広メノ御宮御立
替、御池御掘立一式已後、(平出)ノ御上より御普請之由、御例御目附方ノ
様より宇右衛門へも御内沙汰も有之、ノ旁以□□々奉存候事、

一、其節馬場筋之所、双方ニ而六拾五間、都ノ而割竹垣ニ相成、已後村

方より時々手入ノ致候様、左候得者五ヶ年廻リニ組夫六ノ拾五人充
立用可有御座、尤御參ノ詣、或者御祭礼等ニ而新ニ仕替候節者、ノ勿
論組方より入用竹木人夫共ニ召出可ノ申旨、武七より被申聞置候事、

一、御縁起、先之略縁起者、(平出)ノ大慈院様御思召ヲ以、御摺替ニ相成、

只ノ今之御縁起壹通、略縁起壹通者、本ノ御縁起前ニ写置事、
御名判御座候御封印ニ相成申候事、

一、御神影御封印ニ相成候節、白ふくさニノ御包、白木之箱共、上ふく
さ、其上黒ノしつ之箱、是江銀之金具鎖前御ノ座候、鎖者、(平出)ノ御殿江
御預、都合ふくさ箱共ニ八重ニノ御包、間々ニ樟腦入居申候事、

但、已後廿五年廻リ御開封ニ相成候ハ、定而虫付ノ可申間、已前
之通毎年正月一日充御ノ結消有御座度、大庄屋より御願申上候処、
ノ右御仕立通ニ候得者、決而虫付不申段被、(關字)ノ仰渡候ニ付、左様之

義ニ御座候ハ、御表具ノ御仕替忝被 仰付候而ハ如何可有御座、
是又ノ祠ニ相成候処、只今新のりニ而御仕替ニ相成候而ノハ、却而
宜無之、矢張此俣ニ而少茂不苦候段、ノ被 仰渡候事、

一、御寄進之品々、左之通、

一、聖徳院様より箱焼灯 壹対

但、巴之御紋付二而御座候、

一、大慈院様より丸焼灯 壹対

但、是ハ縋り幕ノちらしニ釘貫御紋付ニ而御座候、

一、鳥井之御額

但、宮様方之御筆も承り伝し、

一、大乘院様より梅松之御額 貳枚

但、天満宮之義者、大乘院様御守神之由、右二ノ付、御六歳之御

時、御寄進被遊候趣承り伝候、

一、石燈籠 壹対

但、是ハ安武伝八様御越被遊、しつくい迄御仕立ニ相成候、

一、御神影箱ふくさ 一式

×六品

一、御封印之品々、左之通、

一、天満宮御神影

一、梅松之御額 貳枚

但、大乘院様御代ニ相成、御封印ニ相成候事、

一、大友より之感状 拾七通

一、北野座主奉納之連歌 一卷

一、御縁起 一軸

×五品

一、下より寄進仕候品々、

一、御造営之儀、大庄屋才判ニ被 仰付候ニ付、右ノ入用夫金、当組よ

り出夫致候事、

一、手水鉢、川瀬大庄屋竹下次郎兵衛より寄ノ進仕候事、

但、上覆之義者組方より、銘物者御上より明渡ニノ相成候事、

一、連歌堂諸入用一式、倉富丹右衛門殿、蔵八ノ庄屋善兵衛より世話仕

候事、

但、後方修覆、右同断、

一、右入用材木、森部村庄屋次八より全ノ寄進仕候事、

一、社内敷石組方庄屋中より寄附仕候事、

一、駒犬 二ツ

但、竹下武平次、三浦泰助、竹下伊左衛門三人より寄附、

一、石燈籠 二ツ

但、竹下市作、竹下宇左衛門兩人より寄附、

一、簾 一對

但、小川五ヶ村庄屋中より

一、幕 片張

但、日野甚作妻、怡土宇右衛門妻、行徳龍助妻、山下ノ助左衛門

妻、怡土喜三郎妻、

×五人より寄附

一、五色吹流し 一流 但、会所役人中より

一、幕 片張 但、倉富如庵

一、享和二戌年九百年御忌御神祭之ノ節、御側御目附藤田百右衛門様御

開封ニノ御越相成、^(平出)大乘院様御六才之御時、御書被遊候ノ梅松之

御額、御開封ニ相成候処、梅之ノ御額損し居候ニ付、翌亥年^(平出)ノ寛明

院様為^(平出)ノ御名代御帰城被遊候ニ付、右之趣御達ニノ相成候処、天満

宮并御寄進之梅松之^(平出)ノ御額、^(平出)ノ御殿江差上候様被 仰渡候ニ付、

社守平助／并振平右衛門、夫耆人、大宮司小野但馬、大庄屋／竹下武平次、庄屋元右衛門、奉供仕、町宿／罷越、^(平出)／御殿江者大庄屋、社守父子、夫耆人二而／奉御供仕差上、大宮司、庄屋者、町宿迄／二而、何れも引取、左候而十日余り茂、^(平出)／御殿江御留二相成、其後大庄屋竹下武平、^(平出)／次庄屋元右衛門、社守平助、^(平出)／御殿江御呼二付、罷出候処、虫付之方、^(平出)／寛明院様御自筆二而墨跡二御替被遊候／条、大庄屋、社守江拜見被 仰付候、其俣／御拜受申上候様被 仰渡、天満宮并松之／御額共二御下ケ二相成、其節紅梅之御／鉢植満花仕居候を、御寄附二相成候間、／花本過二者地植二致、根元江盛土仕／置候様被 仰渡候二付、花過初秋二相成、御社／左之方江地植二仕、其段御達申上候処、釘／貫之御印札御渡二相成候事、

但、天満宮御下ケ二相成候節、御封印無御／座候二付、御伺申上候処、組方二而一日為御結／消御拜為致候様 仰渡候間、左様之／御思召二候ハ、何卒三日程御免被 仰付被下候／様、大庄屋より御伺申上候処、其儀者相成不／申、一日之所御免二相成候段、被 仰渡候二／付、其趣披露御座候処、誠二数多之参／詣御座候、左候而拜立る者御側御目附様／御越二而、直二御封印二相成申候事、大庄屋才判二被 仰付置候二付、御神忘／御社修覆、其外万事組役ヲ以仕／調二相成候事、

- 一、社守儀御開封御封印、^(平出)／御代参与して御側御目附様御社／参之節者、上下着用致、鳥居前迄罷／出来候事、
- 一、御開封御封印、^(平出)／御代参之節、御初穂／御神納二相成申候事、
- 一、九百年御神忌之節、仮拜殿入用／御幕并陣桐油御貸渡二相成候事、
- 一、御摺替二相成候御縁起、別紙写置候／事、
- 一、先々御縁起、右同断、

一、注連松、天明二寅年大庄屋より森部村／又五郎与申者江才判被申聞、右／又五郎才判ヲ以、植立二相成候事、

一、当村庵之儀、小川伊賀守菩提寺之由／申伝候、右二付鏡智山大円寺与申寺号、山号／御座候、大友焼打之節焼失致、其後／元右衛門先祖只今之庵取候由申伝居候／事、

一、社守儀、追々零落仕、既二振平右衛門杯ハ、／荒使子奉公仕候様、罷成候二付、竹下武／平次其趣承り候二付、段々御歎被申／上何卒社守へハ、小脇指御免被 仰付、其／上銀子拝領被為 仰付被下候ハ、組方より／茂加勢為仕、平助方振り立候様有御／座度趣、御願被申上候処、御切手五メ／百目御寄附二相成候間、組方よりも加勢為致、小川村分二而地方耆町程も付置候様、／左候ハ、振合も宜可相成、小脇指之義／者、追而御沙汰も可有御座被 仰渡候事、

一、右御寄附御切手五メ百目并組方より之／寄附銭之内より平助質入地方本地新／畑田姥地与申所、壹反四步受返し、／神田二相成、其外同人借財迄仕／払二相成申候事、

一、右入用残り銀子、田主丸町庄左衛門、／和助、小兵衛三人江相頼、貸廻し二相成／申候二付、追々銀高相増申候間、大庄屋／竹下平助より被取立、小川村分地方六／反五畝廿八步調二相成、右余力会所江預り／二相成居申候事、

一、文政十亥年、九百廿五年御忌御祭／礼為御開封、御側御目附藤田百右衛門／様御越相成候事、

但、先年之通御神納有之候事、
但、右同断、

一、右御神忌二付、寄附之品々、

一、昇四流 組方庄屋中

一、又色々結幕 片張 竹下李之助殿

一、作り松 壹本

但、竹下仁助殿食宦又右衛門殿、竹下市作殿、三浦／泰助殿、其

外五ヶ村組庄屋中より、

一、八百七拾五年、安永六酉年御神忌御願申上、

一、九百年 享和二戌年御神忌御願申上、三七日／執行御座候処、雨天

二付日延被 仰付、都合／三十日御座候、

但、為賑歌舞妓芝居、晴天十五こま打二品御／免被 仰付候事、

一、九百廿五年 文政十亥年御願申上、二七日執行／御座候、日延被仰付、

三月十八日より四月／十日迄、都而廿二日執行御座候、

但、為賑歌舞妓芝居御願申上候処、五ヶ／年御俟約御年中二付、本

芝居ハ御庭／同然之御宮柄二付、不被 仰付候段、被^(関字)／仰渡候二付、

物まね、こま打、浄瑠璃芝／居、水からくり、都合四つ御免被^(関字)／仰

付候事、

一、御封印四月十日より亀王江御出二相成居、／同十一日権九郎様御越

相成事、

一、諸御役二御目附衆七人、四月十一日、同十／二日両日二引取二相成

申候事、

嘉永二酉年四月

御影虫干

一、四月十一日より晴天三日、御影虫干御達／申上候二付、十日より御

目附大森彦市様、／下目附古賀龍吉様被遊御出役、大庄屋及／惣代衆

御召連、同日御出役二相成候事、

一、十一日雨天二付、十二日御開封二相成候事、

一、十三日八つ時分より降雨二相成候事、

一、十四日朝より降雨之処、御目附様、下御／目附様より御封印被遊候

段被仰聞候／得共、大庄屋殿御参詣、此雨天之俣／御封印御座候而者、

虫付等も難計／被存、張付師田主丸新町要助御呼二而／為見二相成候

処、少ししめり相見候二付、／御封印二相成候而ハ宜間敷旨申出候／

二付、其段御目附様江御達二相成、御封／印御見合二相成候事、

一、十五日朝より晴天二付、四つ時分御封印／相濟、昼飯後より御目附様、

下御目附様共、／御引取二相成候事、

一、御目附様御不快二付、行駄御手当ヲ／御籠夫小川村より式人、行徳

村より式人／差出二相成、片ノ瀬橋迄才料衆御案／内被成候事、

一、御目附様、下御目附様、御宿庄屋宅、／大庄屋殿組御役人衆ハ、長

百性^(姓)倉次方／御宿之事、